



カケハシ・プロジェクト（米国） イノウエ・プログラム招へい第2陣 (Howard University) の記録

1. プログラム概要

【目的】米国ワシントン D.C. のハワード大学の大学生が来日し、学校交流や視察等を通じて日本の政治、経済、社会、文化、歴史及び外交政策などについて理解を深めるとともに、日米の大学生同士の友情を深め、ネットワーク強化を図り、日本の魅力を積極的に対外発信してもらうことを主目的として実施しました。本プログラムは米日カウンシルとの連携により実施しました。

【参加者】米国ワシントン D.C. の大学生及び学校関係者 計 15 名

【訪問地】東京都、新潟県

【日程】

■ プレプログラム（オンライン事前学習）：

2月27日（火曜日） 【来日前（渡航前）オリエンテーション】事業目的・ミッション、日程説明、渡航注意、新型コロナウイルス感染症対策等

来日までの指定期間 【動画視聴】講義「日本と国連」、日本理解講義（Web Japan より選択）

■ 招へいプログラム：

3月3日（日曜日） 羽田空港より入国

【オリエンテーション】

3月4日（月曜日） 【視察】本所防災館

【視察】国会議事堂

【視察】増上寺・東京タワー

3月5日（火曜日） 【視察】深川江戸資料館

【視察】千葉工業大学東京スカイツリータウン®キャンパス

東京都から新潟県へ移動

3月6日（水曜日） 【視察】株式会社新発田ファーム

【学校交流】敬和学園大学

【視察】菊水酒造株式会社 菊水日本酒文化研究所

【交流】敬和学園大学の学生と新潟駅周辺散策

3月7日（木曜日） 【視察・交流】敬和学園大学の学生ガイドによる新発田市立歴史図書館、新発田城、清水園

新潟県から東京都へ移動

3月8日（金曜日） 【ワークショップ】報告会準備（訪日成果のとりまとめ、帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成）

【視察】東京国立博物館
 【表敬訪問】外務大臣政務官 穂坂 泰 氏
 3月9日（土曜日） 【都内視察】明治神宮・原宿（日本のポップカルチャー）
 【都内視察】渋谷
 【報告会】訪日成果・帰国後の活動計画発表
 【交流会】米日カウンスル
 3月10日（日曜日） 【都内視察】皇居
 【都内視察】お台場
 羽田空港より出国

2. 記録写真

招へいプログラム

	
3月4日【視察】本所防災館	3月4日【視察】国会議事堂
	
3月4日【視察】増上寺・東京タワー	3月5日【視察】深川江戸資料館
	
3月5日【視察】千葉工業大学東京スカイツリータウン®キャンパス	3月6日【視察】株式会社新発田ファーム

	
3月6日【学校交流】敬和学園大学	3月6日【視察】菊水酒造株式会社 菊水日本酒文化研究所
	
3月6日【交流】敬和学園大学の学生と新潟駅周辺散策	3月7日【視察・交流】新発田市立歴史図書館
	
3月7日【視察・交流】新発田城	3月8日【ワークショップ】報告会準備
	
3月8日【表敬訪問】外務大臣政務官 穂坂 泰 氏	3月9日【都内視察】明治神宮

	
3 月 9 日【都内視察】原宿	3 月 9 日【報告会】
	
3 月 9 日【交流会】米日カウンスル	3 月 10 日【都内視察】お台場

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 大学生

プログラムで最も印象的であったのは、深川江戸資料館でした。時空を超えて正確に復元された実物大の歴史的建造物を体験し、江戸時代における日本人の生活様式や文化を学ぶことができ、とても楽しかったです。再現された家や店を歩いて見学し、驚きを覚えました。ガイドの方が、その時代に作られた布のうち、いくつか模様を見せてくれました。その一つに漢字をデザインした模様が描かれていた布がありました。一見すると単なる渦巻きのように見えるのですが、美しいデザインを形成していました。模様の意味について説明を受けた後、日本文化において工芸品の多くは、精密さと意図を兼ね備えたものであることが分かりました。日本人の生活様式、そしてそれがどれくらい日本という国に影響をもたらしてきたかをこの一週間で目の当たりにし、魅力的だと感じました。

ほとんどの建造物が木材で建てられていた時代、日本では火の見やぐらの設置や半鐘を鳴らすことで火事を防いでいました。現代では地震や台風の警告を発しており、その防災意識については私たちが最初に視察した本所防災館でも学ぶことができました。

◆ 大学生

訪日中、カケハシ・イノウエ・プログラムでもっとも感銘を受けたのは敬和学園大学の学生たちとの交流と、プログラム全体を通して食した日本の伝統料理でした。プログラムの4日目、敬和学園大学の学生と茶道、習字、浴衣着付けなどの文化交流を行いました。これらの体験は魅力的で、学生や職員との交流はとても有意義でした加えて、多様な日本文化を反映している食事を楽しむことができました。

◆ 大学生

本交流プログラムは数多くの記憶に残る経験を与えてくれました。すべての経験が、日本文化・社会に関する理解や知識の習得に役立つものでした。本所防災館は特に印象に残っており、災害に対する準備に対しての必要な知見、日本でも米国においても適用できる貴重な知識を与えてくれました。深川江戸資料館では、日本の在りし日の日常生活の様子を展示していて、日本の歴史・豊かな文化遺産の魅力を垣間見ることができました。東京スカイツリー® は現代技術の結晶であり、日本のイノベーション及び創意工夫の証で、高くそびえ立つ存在に畏怖を覚えました。新発田ファームでは、その効率性・利便性の高さに感銘を受け、手際よく作業をこなすスタッフの懸命な働きぶりを目の当たりにしました。さらに、敬和学園大学の学生との交流はハイライトであり、彼らのあたたかいおもてなしと本物の友愛は一生の思い出です。文化遺産と伝統を共有しようとする彼らの熱意により、私たちの経験は豊かなものとなり、もうすでに、一緒に過ごした時に育んだ友情を懐かしんでいます。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 視察先

参加者の皆様は非常に礼儀正しく施設内を見学していただきました。当方の説明に関しても熱心に耳を傾けていただき、数多くの質問が出たことで説明内容をご理解いただけている様子が伺えました。施設見学後、当社の農産物直売所で沢山の土産物もご購入いただき、感謝しております。

5. 参加者の対外発信、報道事例等（抜粋）

	
2024 年 3 月 5 日（Instagram） これは東京スカイツリー® で、東京タワーの2倍近い高さがあり、2011 年には世界一高いツリー状構造物として認定されました！驚きです！	2024 年 3 月 7 日（Instagram） カケハシの旅。 昨日は敬和学園の学生と一緒に過ごしました。すべてがとても楽しかったです！ 着物の試着、自分の名前を漢字で書く書道体験、茶道体験もしました！贅沢な気分です。

	
2024 年 3 月 5 日(新発田ファームの Instagram) 昨年に引き続き、今年もカケハシ・プロジェクトの一環で米国のハワード大学の学生さん 15 名が私たちの苺ハウスを訪れてくれました！栽培に関する説明をし、質疑応答、そして隣接する市場でのお買い物を楽しめました。ありがとうございました！	2024 年 3 月 6 日(敬和学園大学カケハシチームの Instagram) 書道、茶道、浴衣(日本の夏用の着物)、昼食作りを体験しました。その後、喜久水酒造さんの見学に行ってきました。楽しい一日を満喫しました。私たちは明日もハワード大学の学生さんたちと素晴らしい一日を過ごせるように願っています。

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表(抜粋)

訪問地：東京都、新潟県(全 3 グループが発表)

グループ 1
  
【訪日中の学び】 連帯感：地域社会では互いに助け合うよう推奨されています。 おもてなし：日本のおもてなしは客人をもてなすという昔からの伝統の上に成り立っています。 技術革新：千葉工業大学は技術革新において積極的なアプローチや意欲が感じられました。 調和：わびさびなど概念が自然との調和を促進しています。 【アクション・プラン】 海外旅行を検討するときに日本が素晴らしい一つの選択肢であることを伝えるために下記のアクション・プランを実施します。 プラン①：2024 年 4 月～5 月、ハワード大学関係機関の学生や関係者などを対象に、大学のキャンパスでプレゼンテーション行うブースを設置します。 プラン②：2024 年 4 月～5 月、ハワード大学の学校機関の学生・職員に向けた学校新聞において本プログラムで学んだことを記事にし、掲載します。 【将来の展望】 ・ 流暢に話せることを目的に日本語の勉強と日本の文化についての探求を継続的に行います。 ・ 留学、インターンシップ、就職等で日本を再訪したいです。 ・ 将来、研究職で、日本の研究者と協力したいと思います。

グループ 2



【訪日中の学び】

- ・ 仏教・神道を信仰し、神社仏閣などの文化的遺産があり、参拝方法など確立された作法があります。
- ・ 深川江戸資料館では、江戸時代当時の生活様式などを学びました。
- ・ 敬和学園大学学生との交流では、日本人のおもてなしを体験しました。
- ・ 日本食は挑戦の側面もありましたが、新しい文化体験となりました。
- ・ 千葉工業大学では、日本の最先端科学技術について学びました。
- ・ 東京タワー、東京スカイツリー®という『東京』という都市を象徴する鉄塔を見学することができました。
- ・ 日本人は買い物、清潔さ、挨拶などあらゆる側面で礼儀作法を重んじ、それが身についていることを学びました。

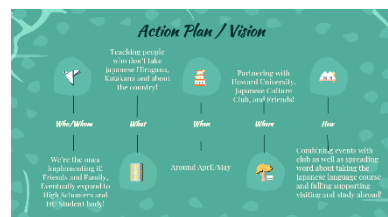
【アクション・プラン】

2024 年 4 月、高校や大学にて学生を対象に、本プログラムで得た気づき・経験および参加可能なプログラムなどの情報を共有し、詳細なプレゼンテーションにて訪日の機会を促します。

【将来の展望】

- ・ 流暢な日本語を話せるように努力します。
- ・ 友人や家族等と一緒に再訪日や、日本への旅行を継続します。
- ・ 日本への留学、インターン、就職の機会を探ります。

グループ 3



【訪日中の学び】

- ・ 国会議事堂では、その歴史や構造物・施設としての役割などについて学習しました。
- ・ 敬和学園大学での文化交流では、茶道における作法・身だしなみなどについて教えていただきました。
- ・ 日本社会での生活から日本の食文化、日本人の清潔感、敬意などについて学びました。
- ・ 本所防災館や深川江戸資料館の火の見やぐらからも見受けられる日本人の防災意識の高さについて理解を深めました。

【アクション・プラン】

4月～5月に、ハワード大学・日本カルチャークラブ・友人と協力して、クラブの催し物に併せて、日本語コースの選考、訪日・留学の支援などについて発信し、ひらがな・カタカナを教え、日本という国について伝えます。

【将来の展望】個別の実施計画：

- ① 自身の旅行ブログに、日本で訪れた場所や訪日の感想を投稿します。
- ② 本プログラムのような訪日交流プログラムを、今後も、より多くのハワード大学や高校の学生が参加できるように活動資金支援の方法を考えます。
- ③ 地域の学校で放課後プログラムの先生としてアルバイトをしているので、生徒たちに様々な日本文化に触れてもらいます。習字や有名な日本の駄菓子を紹介します。
- ④ 友人、家族、チューターの仕事で関わっている子どもたちに日本文化やひらがなを教えます。その成功をもとに、活動をハワード大学に広めていこうと思います。

実施団体名：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）